

世界の子育て紹介 リッチモンドだより 第42回

# 早く家に帰りたい…

日本語プレイグループ「宝島」 須賀 孝子

## テントのキャンプは行かない！

昨年11月号にて、カナダのキャンプ旅行について書かせていただきましたが、今回はその続きで、我が家のキャンプ旅行体験について、お話しさせていただきます。

長男の陸が6歳、次男の泰が3歳になった2009年、「ライナー（主人）が子ども達とキャンプに行っている間、私は一人でゆっくりさせてもらおう」という私の目論見は、あっけなく崩れました。それまでの2年間、主人が陸だけを連れて行っていたキャンプ旅行。泰が3歳になったので、一緒に連れて行くと言ってくれたのですが、私も必ず来なくてははいけないと言われ渡されました。一人では面倒見切れないと。我が家の二人の息子達は筋金入りのやんちゃ坊主。高い所は上らないと気がすまない、地面にうごめくものは触らないと気がすまない、視界の広がる場所は走らないと気がすまない、速い物は追いかけないと気がすまない子ども達なのです。主人は私がキャンプ嫌いなのは知っていましたが、どれほどキャンプが子ども達に良いものか、広い北米大陸を旅するにはキャンプが最適、でも自分一人では子ども達の安全を確保できる自信がない、と懇々と説得されました。しまいには私も折れましたが、一つ条件を出しました。「テントでのキャンプなら行かない！」と。

こうして、私のリクエスト（というか脅し）で、テントトレーラー（車で牽引するトレーラーで、その上に展開するテントが収納されている）を中古で購入しました。テントトレーラーは折り畳みテントを広げると、トレーラーの両サイドにクイーンサイズのベッドが2つ出てきます。雨の多いバンクーバーでは、地面につかない寝床確保はとてもありがたいのです。また、簡易トイレが収納でき、シンクつきキッチンとダイニングテーブル・ソファもついていて、小さい子どもが二人いる我が家ではとても重宝しました。

## 唯一気が抜ける時に…

次男の泰を連れての初めてのキャンプ旅行は車で1時間ほど行った湖へ、友人家族達と5泊、キャンプ場で泊まりました。さらに2週間後には海沿いのキャンプ場へ3泊、泊まりに行きました。テントトレーラーに変えても、テント設置や準備にやはり30分はかかりますので、ライナーがテントの準備をしている間や食事の用意をしている間、あちこち新しい場所の探検に走り回る子ども達の後を私が必死で追いかけていました。自然の中は幼児にとっては危険なところもたくさんあり、目を離すことができませんでした。唯一気が抜けるのは、子ども達が二人寝静まってから、キャンプファイヤーの火を見な



がらビールを一本飲むことでした。それでも泰の夜泣きがあれば慌ててテントトレーラーに戻り、周りのキャンパーたちに気を遣いながらなだめたり抱っこをしたりしていました。「早く家に帰りたい」と耐えたキャンプ1年目でした。

## 窓ガラスにびっしりと黒いものが

そんな私の思いとはうらはらに、翌年2010年「今年は2週間のキャンプ旅行に出かけるよ」と主人が宣言し、8月にはカルガリー・バンフ方面へ、2週間強のキャンプ旅行へ出かけました。陸が7歳、泰が4歳です。2週間分の荷物をなんとか詰め込み、途中で友人家族を訪れたりしながら、1週間ほどで最終目的地であるドラムヘラーの恐竜州立公園につきました。昨年と同様、キャンプ場では子ども達の後を追いかけて、友人宅に泊まる時には子どもが物を壊さないように目を光らせ、最初の1週間でもうへとへとに疲れていた私ですが、ここなら子ども達が楽しめるアクティビティがたくさんあって、少しは楽できるかな？と期待していました。カルガリーから車で2時間、涼しい夏のバンクーバーとは違い、ここはほぼ砂漠と呼べる地帯です。37-8度はあったでしょうか。州立公園内にあるキャンプ場に到着し、さて車の外に出ようと思ったその時、車の窓ガラスにびっしりと黒いものがくっついて来ました。「何これ!？」よーく見ると、それは蚊でした。大量の蚊が停まったばかりの車にびっしりと張り付いています。「本当にこのキャンプ場に泊まるの・・・?」私達に選択の余地はなく、車の中で家族全員体中に蚊よけスプレーをふりかけ、長袖シャツとジーンズに着替え、車の外に出ました。大急ぎでテントを広げ、準備をし、ピクニックテーブルの周りに蚊よけネットをはった頃には全員汗だくでした。ふと気がつくと、「絶対顔にはスプレーしない!」と言い張った泰の顔には、蚊に刺された跡が21個。。。ここでも「早く家に帰りたい」と思った私でした。